

令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業 運動部活動の地域移行に向けた実証事業 成果報告書（概要）

福岡県

●地域における現状・課題

- ・市町村における部活動改革に係る進捗状況（協議会の設置済：29/58、意識調査の実施済：32/58、説明会の開催済：20/58）
- ・生徒のスポーツ環境を確保するために合同部活動を実施したり、教師の負担軽減及び指導の充実を図るために部活動指導員や外部指導者を活用した地域連携に取り組んだりしている自治体が多い。
- ・令和8年度以降の明確な方向性、育成を含めた指導者と運営団体・実施主体の確保、継続した財政的支援や関連諸制度等の見直し

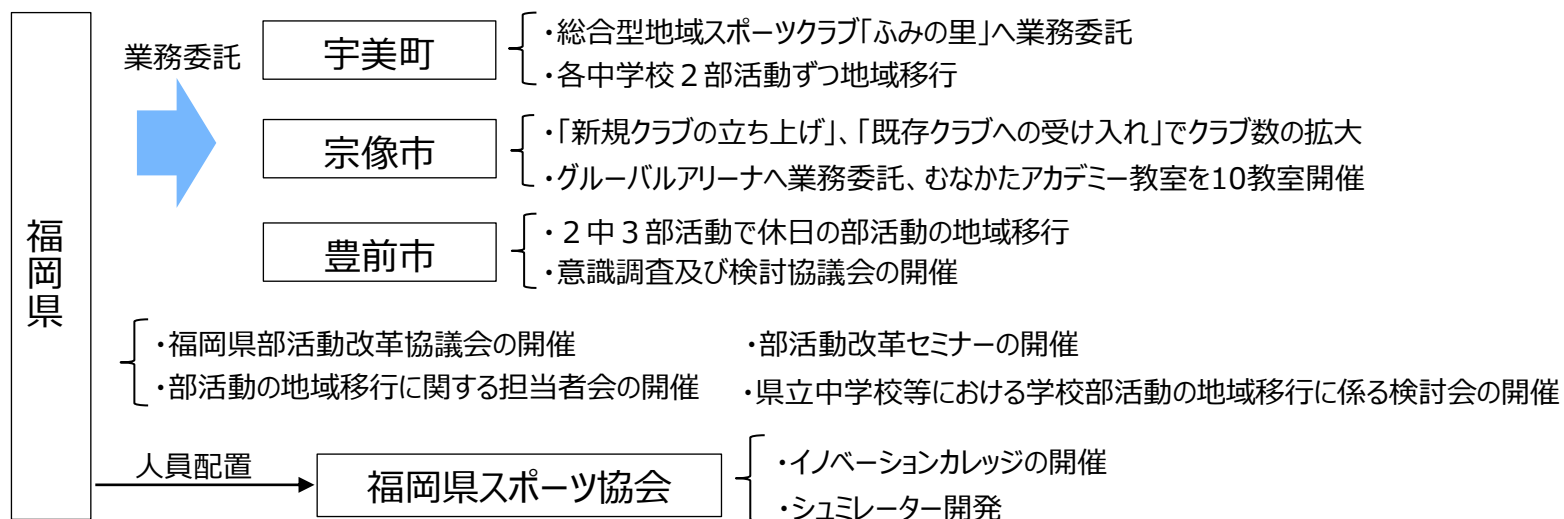
●取組事項の概要

- ・関係者との連携調整に関する取組（部活動の地域移行の担当者会、福岡県部活動改革セミナーの開催）
- ・指導者の質の保証に関する取組（各種研修会の実施、スポーツリーダーバンクの充実）
- ・関係団体・分野との連携強化（福岡県スポーツ推進委員協議会、福岡県スポーツ協会との連携）
- ・参加費用負担の支援等（シュミレーターによる運営費用の算出）

●取組の成果、特に工夫した点等

- ・福岡県部活動改革セミナーにおいては、自治体のニーズに応じたセミナーとなるよう、6つのテーマをもとに分科会を設定した。
- ・福岡県スポーツ協会が作成した「シュミレーター」や「地域移行に向けた手順チェックシート」をもとに、部活動の地域移行の「わがまちのロードマップ」を作成した。
- ・人口や中学校数などの各市町村の情報を入れるだけで、同規模自治体がどの類型で運営しているかを検索できる実践研究事例データベースを作成し配布した。

●運営体制図



令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業 運動部活動の地域移行に向けた実証事業 成果報告書（概要）

福岡県宇美町

●地域における現状・課題

「現状」 学校部活動は、指導力の不足や校務の多さから教職員の業務の負担となっている。

また、宇美町は担当している部活動の競技経験がない教職員が全体の約6割を占める。

「課題」 指導者の量・質の確保、休日の部活動を支える運営団体やスポーツ所管課との連携体制の確立、保護者への周知、理解、協力など

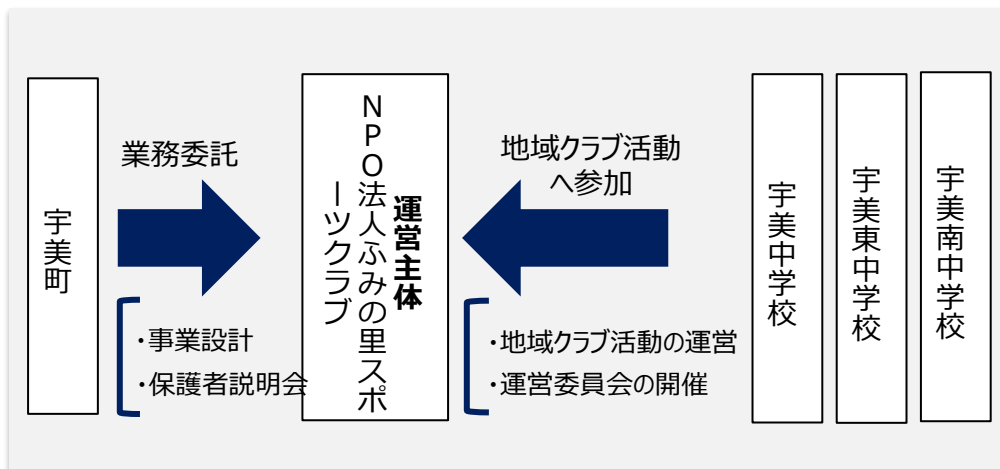
●取組事項の概要

- ・地域クラブ活動を実施数 町内3中学校各2部活動（合計6クラブ）
- ・指導者数 11人
- ・活動開始月 8月
- ・推進検討委員会の立ち上げ

●取組の成果、特に工夫した点等

- ・顧問の負担軽減の面では、教職員アンケートから顧問の負担軽減となっているとの意見があり、一定の成果があがっている。
- ・指導者の確保の面では、今年度新たに7名の確保ができた。
- ・保護者の理解の面では、PTA総会での説明や保護者説明会を行い、活動への理解促進を行った。
- ・推進検討委員会を立ち上げ、今後の町の方針の策定のため関係諸団体や学識経験者と協議を行った。

●運営体制図



●地域クラブ活動の概要（代表的な取組例）

- (1) 運営類型：総合型地域スポーツクラブ運営型
- (2) 運営主体：NPO法人ふみの里スポーツクラブ
- (3) 種目：男子ソフトテニス、女子ソフトテニス、陸上、サッカー、女子バレー
- (4) 指導者の主な属性：地域指導者、教員の兼職兼業
- (5) 1か月あたりの平均的な活動回数：月3回程度
- (6) 主な活動場所：学校、社会教育施設等
- (7) 主な移動手段：自転車等
- (8) 1人あたりの参加会費等（年額）：徴収なし
- (9) 1人あたりの保険料：生徒1人あたり：800円/年
指導者1人あたり：65歳以上 1,200円/年
65歳未満 1,200円/年

令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業 運動部活動の地域移行に向けた実証事業 成果報告書（概要）

福岡県宗像市

●地域における現状・課題

・現状中学生の運動部活動は全国的傾向と同様に教員の負担で成り立つ構造で、一部その対応として外部指導者を受け入れ、運動部活動が維持されている。教員負担は大変大きく、競技種目未経験者が受け持つことも多く、中学生のスポーツ環境としてもより良い状況となっていない。また、少子化により、やりたい活動が中学校にない、部員数が少なくて活動ができないなどの状況がある。

課題として、学校部活動地域移行後の受け皿となる地域クラブの運営主体、指導者の確保。学校部活動地域移行事業の中学校指導者への周知と理解促進、中学生への周知と部員確保。

●取組事項の概要

市内中学校の運動部活動全10種目において、市が運営、実施主体となるスキルアップ教室「むなかたアカデミー教室」(委託先株式会社グローバルアリーナ)を、令和5年度の部活動休養日(毎月第1土・翌日曜日)に開催。

●取組の成果、特に工夫した点等

令和5年度の「むなかたアカデミー教室」へは225人の中学生が参加した。

内訳：サッカー32人、バスケットボール35人、陸上短距離、16人、陸上長距離7人、バレーボール26人、剣道10人、軟式野球10人、ソフトボール23人、卓球18人、ソフトテニス48人

●運営体制図



●地域クラブ活動の概要（代表的な取組例）

- (1) 運営類型：民間スポーツ事業者運営型
- (2) 運営主体：(株)グローバルアリーナ
- (3) 種目：宗像市立中学校にある部活動9種目
- (4) 指導者の主な属性：中学、高校教員
- (5) 1か月あたりの平均的な活動回数：月1回程度
- (6) 主な活動場所：宗像市内各中学校ほか
- (7) 主な移動手段：保護者による送迎、自転車
- (6) 1人あたりの参加会費等（年額）：3,000円/年
- (7) 1人あたりの保険料：生徒800円/指導者円

令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業 運動部活動の地域移行に向けた実証事業 成果報告書（概要）

福岡県豊前市

●地域における現状・課題

- ・少子化に伴い、各学校の部活動運営数が減少し、一部合同部活動で運営しているものの廃部となった部活動も少なくない。
- ・近郊にはスポーツクラブチームも少なく、送迎や高額な会費等の問題もあり、やりたいスポーツができず、結果子どもたちの選択肢が狭められている。
- ・中学校再編成により中学校1校、義務教育学校（小規模特認校）1校となるため、再編時にはやりたいスポーツが選択できる環境づくりを行いたい。

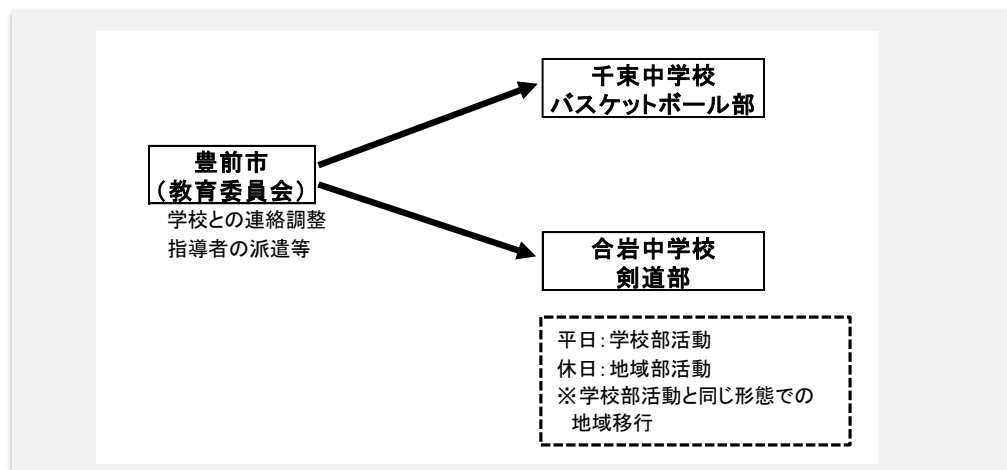
●取組事項の概要

- ・検討協議会の設置、協議
- ・休日の部活動地域移行する種目の選定
- ・アンケート調査の実施、改革の方向性の検討など

●取組の成果、特に工夫した点等

- ・検討協議会を実施、関係団体との協議等により、豊前市の現状把握、部活動の地域移行の必要性などの意識共有ができた。
- ・アンケート調査の結果から今の子どもたちのニーズ等が把握でき、それを基に今後の地域移行の方向性等検討を行った。
- ・現中学校にはない部活動だが、子どもたちのニーズの高い種目について新中学校開校時に部活動及び地域クラブとして活動できるよう検討を行った。

●運営体制図



●地域クラブ活動の概要（代表的な取組例）

- (1) 運営類型：市区町村運営型
- (2) 運営主体：豊前市教育委員会
- (3) 種目：バスケットボール、剣道
- (4) 指導者の主な属性：個人
- (5) 1か月あたりの平均的な活動回数：
- (6) 主な活動場所：中学校
- (7) 主な移動手段：徒歩
- (6) 1人あたりの参加会費等（年額）：
- (7) 1人あたりの保険料：